

(34)

SHIPPING ADVICE # 10108
SACK # 2
ITEM # 19

獨立混成第百十八旅團歷史

獨立混成第百十八旅團

24750

13060

1601

獨立混成第百十八旅團歷史

一、日露戰爭後廣島灣ニ藝豫要塞設立セラレ爾後文化、進展
ト兵器、進歩世界各國海軍力、充實等ニ鑑ミ戰爭様相、變化
ニ采シ藝豫要塞ヲ解体シ新ニ瀬戸内海要部ナル豊後水道ニ
轉進工事、數ヶ年、年月ヲ要シ大正十五年（一九二六年）八月一日
左記配備、豊豫要塞ヲ設立ス

要塞司令部

高島第一砲台（九糢速射加農四門）

高島第二砲台（三十糢榴彈砲四門）

高島第三砲台（十三糢速射加農四門）

佐賀、閏町

佐賀閏町高島

三崎村

佐田岬砲台（三十糢榴彈砲四門）

丹賀砲台（三十糢砲塔（三聯裝）一基）東中浦村

二、豊豫要塞設立ト同時ニ要塞地帶法、適用ヲ受フル町村左、如

九州側 大分縣 北海郡 郡、南海郡 郡

四國側

媛媛縣 西宇和郡

三崎村、神松名村

同

縣 北宇和郡

日振島村、北灘村、下灘村

高知縣 濑多郡

冲ノ島村

三、大正十五年（一九二六年）八月一日以降ハ彈薬、補給整備、彈薬庫

構築、砲台戰備等專ラ戰力、充實、邁進シ來レリ

戰備ハ陸軍築城部之ヲ擔任シ一般勞力ハ所在地方民力ヲ

徵傭使用セリ

平時、於ケル要塞、機構左如シ

要塞司令部 司令官

參謀部

將校一、下士官一、雇員一

副官部

將校一、下士官二、傭人三

砲兵部

將校一、下士官四、工員五

工兵部 將校一 下士官三 工員一。

下士官手三

工員一。

經理部 將校一 下士官二 雇員二
其 他 各砲台及彈薬本庫ニ監守トシテ下士

官各ニラ配置セアリ

四、昭和十三年七月支那事變勃發シ支那ニ於ケル戰線、擴大
ト事變中ニ於ケル國際情勢ノ複雜化、依リ北滿ノ備ヘラ
充實セサルヘカラサル實情ニ立到リ昭和十四年(一九三九年)
夏左記砲台ヲ解体シ外地ニ轉用セラル

左記

高島第二砲台 (三十糎榴彈砲四門)

佐田岬砲台 (三十糎榴彈砲四門)

之カ撤廢、爲昭和十四年(一九三九年)夏以降ニ於ケル要塞配
備ハ左記配備縮少セラル

要塞司令部

高島第一砲台（九糸速射加農四門）

高島第三砲台（十二糸速射加農四門）

丹賀砲台（三十糸二聯裝一基）

五、前項火砲、抽出ニ依リ昭和十五年（一九四〇年）春十五糸加農四門
野砲十二門ヲ補充セラレ現地ニ到着ス

之ニ依リ戰備計畫ヲ更新シ司令官以下現地研究、結果左記
配備ヲ決定ス

左記

高島第一砲台（九糸速射加農四門）

高島第二砲台（十三糸速射加農四門）

佐田岬第一砲台（十五糸加農、四門）

佐田岬第二砲台（三八式野砲、二門）

丹賀砲台（三十糸野砲塔（二聯裝）一基）

芹崎砲台（三八式野砲、四門）

沖ノ島第一砲台

(三八式野砲 四門)

沖ノ島第二砲台

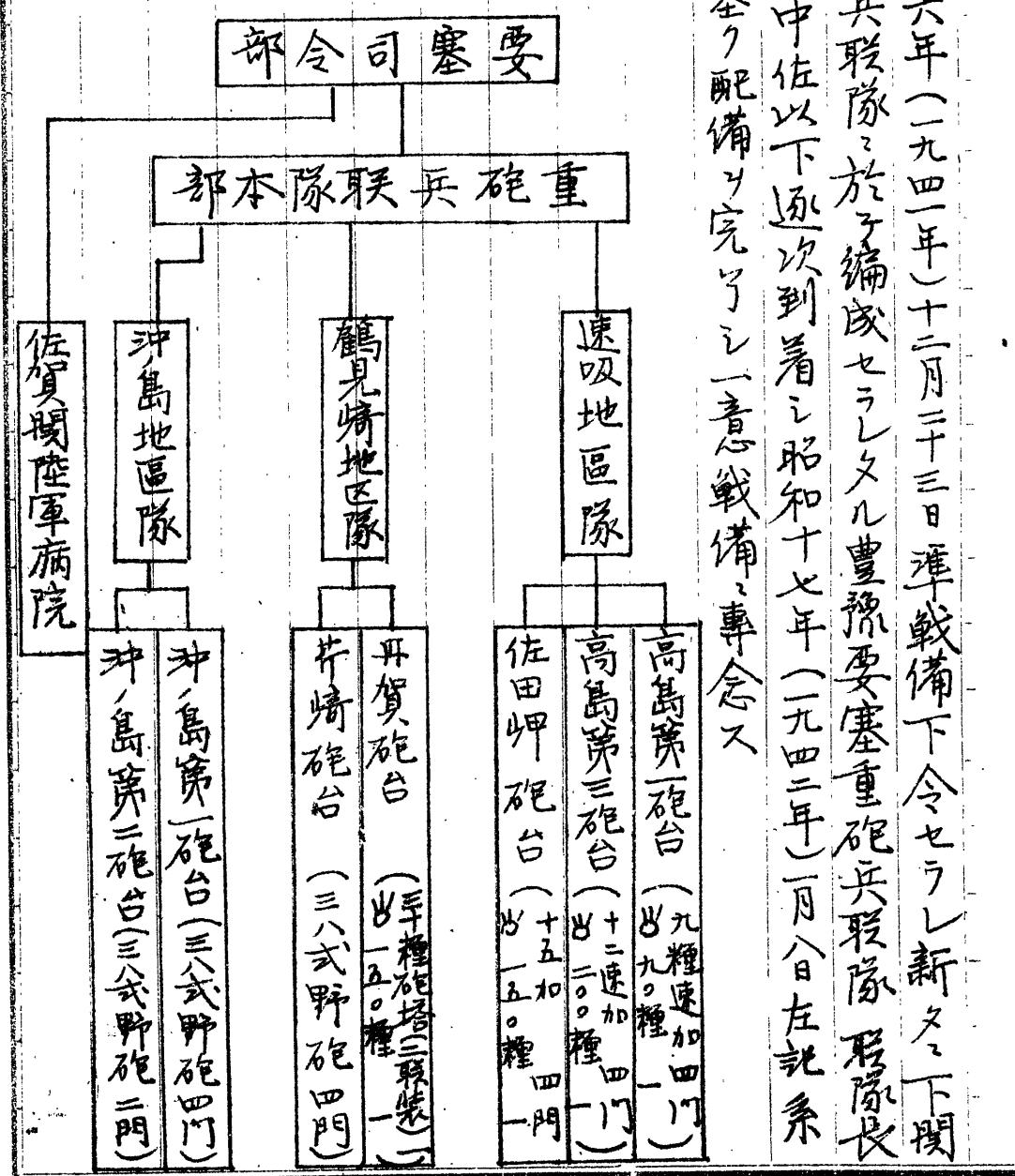
(三八式野砲 二門)

新々佐田岬砲台トシテ補給セラレタル十五粧加農四門ハ陸軍
築城部、於テ昭和十五年(一九四〇年)春ヨリ起工シ同年夏之力
竣功ヲ見ル

野砲十二門ハ要塞司令部兵器庫及彈薬本庫格納保管
シ戦備下令ト同時ニ各地區ニ補給スル如ク計畫ス
六、昭和十六年(一九四一年)十一月十七日要塞、警急戦備下令セ
ラレ同月二十二日勤員計畫、基ク要塞司令部要員ヲ充足シ
同日新々佐賀開陸軍病院設立セラル

警急戦備、應スル重砲兵中隊(中隊長藤近大尉)下、閑重
砲兵隊隊、於テ編成セラレ十一月二十日中隊長以下到着し計畫ニ
基キ速吸方面タル高島及佐田岬、配備ツキ擔任砲台、戦備ニ
着手ス

七、昭和十六年（一九四一年）十二月二十三日準戰備下令セラレ新名下閑
 重砲兵聯隊於子編成セラレ又ル豐豫要塞重砲兵聯隊、隊長
 内藤中佐以下逐次到着シ昭和十七年（一九四二年）一月八日左記系
 統、基ク配備ヲ完了シ一意戰備、專念ス



八、昭和十七年（一九四二年）一月十一日戦備下令以來最初、試験射撃

於テ丹賀砲台（三十糢砲塔）腔發事故、為重砲兵聯隊長内藤
中佐（殉職ト同時ニ大佐進級）以下十六名殉職レ右砲台ハ廢砲台トナル

九、前項丹賀砲台廢砲台トナリタルニ依リ昭和十七年（一九四二年）春

津輕要塞ヨリ十五糢加農二門、伊良湖演習場ヨリ十五糢加農
二門、小倉補給廠ヨリ十三糢榴彈砲四門、轉用シ受ケ陣地ハ西

部軍司令部稻井參謀及要塞側ヨリ植松兵技中佐現地ニ到リ
陣地偵察ノ結果鶴見崎、裝備スルコトニ決定シ陸軍築城部
ヨリ田邊技術少佐以下佐伯、出張所ヲ設ケ砲台ノ建設、着手レ

昭和十七年（一九四二年）夏之ヲ完成ス

十、昭和十七年（一九四二年）八月要塞、編成改正行ハレ當要塞ハ要塞司令部、重砲兵聯隊（本部及五ヶ中隊）及佐賀閑陸軍病院、綿少
セラ防衛擔任地域ニ亦軍事施設、現存スル一町五ヶ村ニ縮少
セラル要塞、於テ防衛ヲ擔任スル町村左ノ如シ

九州側

佐賀閻町

神崎村

東中浦村

米水津村

下入津村

四國側

三崎村

編成改正後、於ケル要塞、編成及配備左、如レ

要塞司令部
(佐賀閻町)

重砲兵聯隊本部
(佐賀閻町)

佐賀閻陸軍病院

第五中隊	第六中隊	第七中隊	第八中隊	第九中隊	第十中隊
佐賀閻砲台守備隊	佐賀閻砲台守備隊	佐賀閻砲台守備隊	佐賀閻砲台守備隊	佐賀閻砲台守備隊	佐賀閻砲台守備隊
(十五加四門)	(十五加四門)	(十五加四門)	(十五加四門)	(十五加四門)	(十五加四門)
佐賀閻砲台守備隊	佐賀閻砲台守備隊	佐賀閻砲台守備隊	佐賀閻砲台守備隊	佐賀閻砲台守備隊	佐賀閻砲台守備隊
(十五加四門)	(十五加四門)	(十五加四門)	(十五加四門)	(十五加四門)	(十五加四門)

陸

軍

十一、前項要塞ノ編成改正、依リ削減セラレタル兵力及兵器ハ左記ノ通り抽出
出轉用セラル

左記

人員 四五〇名 関東軍獨立重砲兵第八大隊及第十大隊轉屬ス

兵器 野砲 八門 小倉補給廠へ

九連加 二門 大阪補給廠へ

残餘、野砲四門ハ要塞ノ豫備トシテ格納保管ス

十二、昭和十九年（一九四四年）七月十五日戰時整備下令セラル

十三、昭和十九年八月西都庫ヨリ命令依リ要塞司令官（三嶋少將）ハ有明灣臨時要塞建設ヲ命セラレ司令部ヨリ幕僚及下士官若干重砲兵聯隊ヨリ聯隊長矢野中佐以下約七十名之參加シ工事隊主力ハ廣島師團編成、江瀬中佐、指揮スル約千名及石井中佐、指揮スル約三百名其他西都庫司令部及西都庫管内各要塞並本工兵隊ヨリ所要人員合計約二千三百名之

参考ニ二代司令官渡辺少將、三代司令官内山少將シ以テ昭和二十
年（一九四五年）三月完成ス

之ヲ配備左、如レ

高崎 地區

高砲台（十五加三門）

批櫛島砲台

低砲台（十五加四門）
(出一五〇粧一)

鬚賀垂島砲台

(十加二門)
(出一五〇粧一)

十四、昭和十九年（一九四四年）十月佐田岬十五粧加農四門前項有明臨時要

塞、轉用、爲撤去ス

十五、昭和三十年（一九四五年）三月十一日紀元節ヲ期シ佐賀瀬陸軍病院

ハ要塞、隸下ヲ脱ス

十六、要塞、任務達成上前項十五粧加農轉用、併ヒ鶴見崎第三中

隊（十二榴四門）ヲ佐田岬、配備変更、決定シ昭和三十年（一九四

年）三月配備シ變更ス

十七、昭和三十年（一九四五年）二月戰況、進展、併ヒ要塞、改造強化ヲ命セラレ左記配備変更ヲ認可セラレ同年三月一日ヨリ洞窟式要塞強化、着手ス

砲台名	砲種（砲數）	主線（射界）
鶴崎砲台	三八式野砲（三門）	高島（左右各三十度）
高島第一砲台	九連加（三門）	三〇度（左右各三十度）
同 第二砲台	三八式野砲（三門）	佐田岬燈台（左右各三十度）
同 第三砲台	十二速加（四門）	同（左右各三十度）
佐田岬砲台	十二榴（四門）	高島（左右各三十度）
鶴見崎砲台	十五加（四門）	九〇度（左右各三十度）

十八、昭和三十年六月軍令陸甲第百四号下令

新タ、独立混成第百十八旅團編成セラレ豊豫要塞、名稱ヲ改廢セラル 重砲兵聯隊ハ旅團編成完結ト同時、重砲兵第十六聯隊ト稱號ヲ變更シ旅團、隸下、入ラシメラル

独立混成第百十八旅團、編合左、如之

編 合 部 隊	編 成 管 理 官
独立混成第百十八旅團司令部	西部軍管區司令官
独立步兵第七一三大隊	
同	
第七一大隊	
同	
第七一大隊	
重砲兵第十八聯隊	東部軍管區司令官
独立混成第百十八旅團砲兵隊	西部軍管區司令官
同	
同	
工兵隊	
通信隊	
東部軍管區司令官	
佐賀關陸軍病院八旅團、編成完結ト同時、旅團、指揮、入ル	

十九、昭和三十年六月十日旅團司令部、編成ヲ完結ス

二十、昭和三十年七月一日以降長野師管區於テ編成セラレタル新編合
部隊逐次到着シ左記配備、基キ現地推進シ終ル

佐賀閑地區 独立歩兵第7一大隊

旅團砲兵隊(後、軍隊區分、基キ各地區、配属スル等)

旅團工兵隊(同)

旅團通信隊(同)

右一
右二

臼杵地區隊 独立歩兵第7一大隊

津久見地區 独立歩兵第7一大隊、一中隊

鶴見崎地區 独立歩兵第7一大隊(中隊缺)

高島地區 独立歩兵第7一大隊(三中隊缺)

佐田岬地區 独立歩兵第7一大隊

独立歩兵第7一大隊、二中隊ハ現地自活班トシテ石垣原演習

場開墾並佐賀閑地區ニ於キ自活、使用ス

二十一、旅團、配備及軍隊區分ハ作戦計畫、依ル

備
軍

三十三、新編合部隊現地推進後ハ取扱ヘス三角兵舎、依ル宿營設備ヲ
行ヒ前後ハ築城着手シ昭和三十年八月十日タコツボ式野戦陣地
ヲ概成セラ

三十四、昭和三十年八月十四日終戦、詔書喚發セラル

三十四、同年九月十日ヨリ旅團主力ノ復員輸送ヲ開始シ同年九月十四日計画
ニ基ク輸送ヲ終リ同年九月十六日ヨリ二十日ニ亘ル間新編合部隊ハ編成
地、歸還シ復員ヲ完了ス

三十五、主力復員後殘務整理、寫ノ殘置人員左ノ如シ

旅團司令部 將校以下九十二名

重砲兵聯隊 將校以下四十三名

三十六、同年九月二十八日鎮西參編第三四八号ニ基キ旅團司令部、稱號ヲ
更シ堅壘兵團特設司令部ヲ編成シ其ノ編成ハ從來ノ通リトス

三十七、昭和三十年（一九四五年）九月二十九日現在、於乞殘置人員左ノ如シ

陸

軍

特設司令部 司令部 將校以下三十五名

警備隊

將校以下四十三名

手入、在大分高射砲第百三十二聯隊第十中隊南大尉以下十五名十月四日以降兵團、指揮下に入ル

三十九、昭和三十年十一月十日(元四年)現在、於尤殘置人員左、如シ

特設司令部 司令部 將校以下十九名

警備隊

將校以下四十三名

三十、前記殘置人員中米軍ノ命、依リ十一月十八日將校四名下士官兵八名

以外復算セシメ協力セレム

三十一、十一月十三日大分進駐軍指揮下ミラー、中尉以下數名旅團兵器參軍需品接收、爲來閑、佐賀閑地區、高島地區、佐田岬地區、順ニ逐次處理シ概木二週間ヲ以テ終リ次テ佐伯市進駐軍クニ一少尉以下數名鶴見崎地區ヲ接收十二月一日茲ニ混成第百十六旅團、解隊

シ完了ス

米軍接收、降シ折衝乞旅團殘置人員左、如レ

將校四名 下士官兵八名（左記○印）

他、旅團長内山少將以下十名後員後協力ス

旅團長 内山少將

隊隊長 天野大佐（整備隊指揮官）

○ 菅付少佐

○ 楠林少佐

菅 大尉

重松 大尉

齊藤 大尉

寢藤 中尉（整備隊長）

○ 成田 中尉

古川 中尉（佐田岬整備隊長）

○ 古川 少尉

中山少尉

廣田少尉

大久保少尉

(高島警備隊長)
(鶴見崎警備隊長)

植木准尉

陸

軍

1618

1619

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>